内科学総論

(1)　内科診断学

診断の手順

1）問診：主訴（患者が訴えている主な症状）

既往歴（いままでにかかった病気や受けた手術、輸血・海外旅行の有無など）

生活歴（生活習慣、喫煙や飲酒などの有無、職業など）

家族歴（親、兄弟、子供の疾病）

現病歴（主訴・症状がおこってきた経過・・・Who、When、Where、What、Why、How）

いつから？　どういうきっかけで？

・感染性、環境性、遺伝性疾患等の診断に重要な情報が得られる

・特徴的な現病歴から診断が推定できる

2）身体所見：視診、触診、打診、聴診

全身所見：　バイタルサイン（意識、呼吸、脈拍、血圧、体温）

栄養状態（身長、体重）、皮膚、リンパ節

ある一定の手順で見ていった方がよい。

局所所見：　頭頸部（頭部、眼、耳、鼻、口腔・舌、甲状腺、リンパ節）

胸部（心臓、肺、胸郭）

腹部（胃十二指腸、腸管、肝、胆、膵、脾）　あと腎臓も!!

上・下肢

神経学的所見

※意識のない人は、身体所見（特にバイタルサイン）
↓
本人・周りの人・家族から問診!!

3）一般検査：　血液生化学検査

末梢血検査（貧血があるか）

尿検査

便検査　（培養して菌がいないか、血はふってないか）

胸・腹部単純X線検査

心電図検査

4）特殊検査：症状や一般検査の結果に応じて行い、診断を確定する。

画像診断：　透視検査

内視鏡検査

超音波検査・・・（心臓，甲状腺）

放射線を浴びない検査

CT検査（放射線を使う）

MRI検査（地磁気，じば，を使う）

血管造影検査

シンチグラフィー（放射線を体に入れ、どこに集まるか見る）

がんのところには放射線とりこまれない。

病理検査：細胞診、生検